

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 : 一般国道3号 <small>くまもときた</small> 熊本北バイパス 起終点 : 自：熊本県熊本市四方寄町 <small>くまもととしよもぎまち</small> 至：熊本県熊本市新南部4丁目 <small>くまもととししんなべ</small>	事業区分 : 一般国道	事業主体 : 国土交通省 九州地方整備局 延長 : 7.6km				
事業概要 : 国道3号熊本北バイパスは、熊本市及び周辺地域の交通渋滞の緩和及び主要幹線道路としての交流・連携機能の確保に寄与する延長7.6kmの道路である。また、既に供用中の国道57号熊本東バイパス及び現在整備中の熊本西環状道路と一体となって、熊本都市圏の環状道路を形成するものである。						
S48年度事業化 : S49年度都市計画決定 S51年度用地着手 : S60年度工事着手						
全体事業費 : 約749億円 事業進捗率 : 92% 供用済延長 : 5.8km						
計画交通量 : 22,000～48,900台/日						
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C : (事業全体) 4.5 (残事業) 9.3 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用 : (残事業)/(事業全体) 46/1,134億円 (事業費 : 43/1,094億円) (維持管理費 : 3.6/40億円) </td> <td style="text-align: center;"> 総便益 : (残事業)/(事業全体) 433/5,120億円 (走行時間短縮便益 : 394/4,541億円) (走行経費減少便益 : 27/410億円) (交通事故減少便益 : 12/170億円) </td> <td style="text-align: center;"> 基準年 : 平成22年 </td> </tr> </table>	B/C : (事業全体) 4.5 (残事業) 9.3	総費用 : (残事業)/(事業全体) 46/1,134億円 (事業費 : 43/1,094億円) (維持管理費 : 3.6/40億円)	総便益 : (残事業)/(事業全体) 433/5,120億円 (走行時間短縮便益 : 394/4,541億円) (走行経費減少便益 : 27/410億円) (交通事故減少便益 : 12/170億円)	基準年 : 平成22年	
B/C : (事業全体) 4.5 (残事業) 9.3	総費用 : (残事業)/(事業全体) 46/1,134億円 (事業費 : 43/1,094億円) (維持管理費 : 3.6/40億円)	総便益 : (残事業)/(事業全体) 433/5,120億円 (走行時間短縮便益 : 394/4,541億円) (走行経費減少便益 : 27/410億円) (交通事故減少便益 : 12/170億円)	基準年 : 平成22年			
感度分析の結果 : 残事業について感度分析を実施 交通量変動 : B/C=10.5 (交通量 +10%) B/C= 8.7 (交通量 -10%) 事業費変動 : B/C= 8.6 (事業費 +10%) B/C=10.3 (事業費 -10%) 事業期間変動 : B/C= 9.3 (事業期間+20%) B/C= 9.4 (事業期間-20%)						
事業の効果等 :						
①交通混雑の緩和 ・熊本北バイパスへの交通転換による国道3号の交通混雑の緩和 ・浄行寺交差点の渋滞が緩和（供用前2,600m ⇒ 供用後1,350m） ・国道3号、国道387号の損失時間が削減 （現況：190.1万人時間/年 ⇒ 133.1万人時間/年）H42推計値 ・国道3号の旅行速度が向上（現況：17.2km/h ⇒ 20.3km/h）H42推計値 ・混雑度が低下（現況：1.9 ⇒ 1.5）H42推計値 ・所要時間の信頼性の向上による便益【約216億円※】 ②交通安全性の向上 ・死傷事故率が低下（現況：199件/億台キロ ⇒ 171件/億台キロ）H42推計値 ・国道3号の死傷交通事故件数が減少（現況：225件/年 ⇒ 195件/年）H42推計値 ・周辺の生活道路から通過交通が減少し、歩行者・自転車の安全性が向上 ③救急医療活動の支援 ・第三次救急医療施設への救急搬送の支援 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮とアクセスが向上する人口（約12分、約95,000人） ・救急医療活動のアクセス向上便益【約315億円※】 ④地域間交流・連携の推進 ・流入交通の適正な分散化により、アクセス円滑化に寄与 ・熊本市四方寄町から熊本県庁までの所要時間が短縮（約12分） ⑤観光行動の支援 ・市街地部の混雑緩和により、自家用車や公共交通による観光行動の円滑化を支援						
※は供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）						
関係する地方公共団体等の意見 : 熊本市をはじめとする3市4町及び商工会・経済団体等で構成される地域高規格熊本環状道路建設促進期成会（会長：熊本市長）等により早期整備の要望を受けている。（平成22年10月）						
県知事の意見 : 一般国道3号熊本北バイパスは、熊本環状道路を形成し、地域間交流や連携を促進する重要な道路です。また、熊本都市圏の渋滞対策として大きな役割を果たす道路であり、「熊本都市圏都市交通アクションプログラム」にも、骨格幹線道路網の整備として位置付けています。以上のことから、「対応方針（原案）」の「継続」について異論はなく、残区間における暫定2車線の早期供用をお願いいたします。						

併せて、この区間の4車線化につきましても、できる限り早期に整備を完了していただきますようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見
審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等
沿線地域(熊本市・合志市・菊陽町)の人口は増加傾向にあり、熊本市と隣接市町間との通勤・通学者数も増加傾向にある。また、当該事業に並行する国道3号の交通量は、当該事業の部分供用に伴い、順次、バイパスに転換しているものの、依然として国道3号(現道)は混雑している状況にある。

熊本市においては、平成24年度に『政令指定都市』への移行が予定されている。

事業の進捗状況、残事業の内容等
平成21年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約92%であり、そのうち、用地進捗率は約97%に達している。

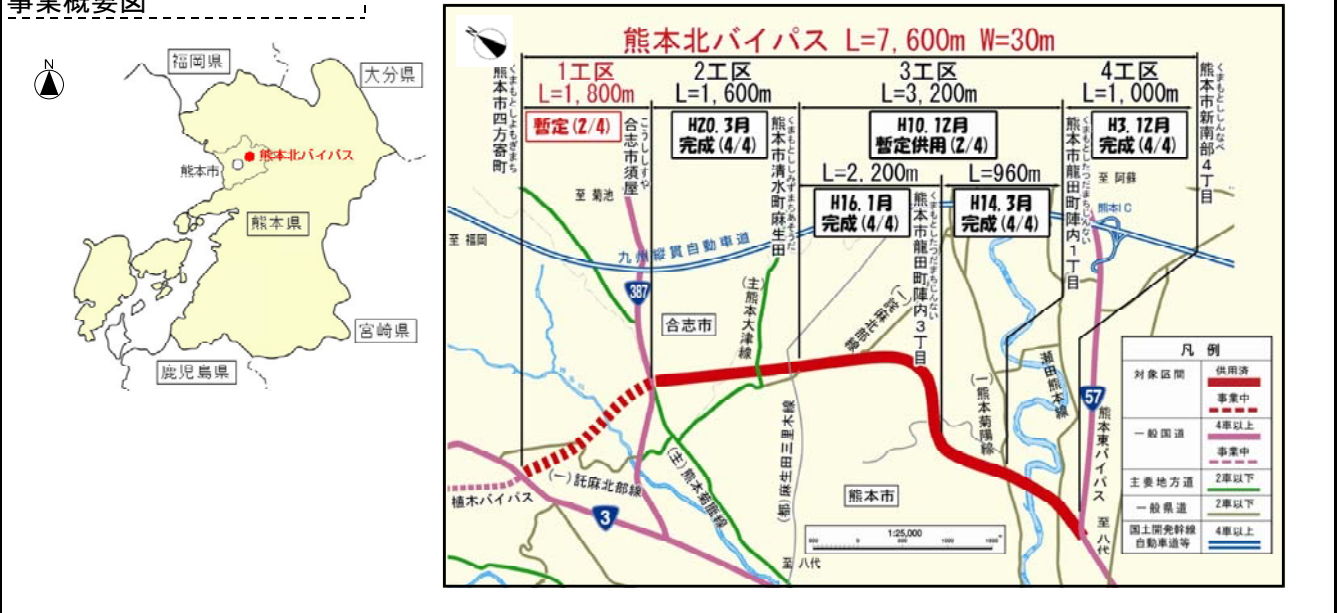
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
地元や関係機関との協力体制のもと、引き続き、残区間(L=1.8km)の暫定供用に向けて、用地買収及び工事等の推進を図っていく。

施設の構造や工法の変更等
当面暫定2車線整備に必要な事業費に見直し【約55億円】

対応方針 : 事業継続

対応方針決定の理由
以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。